

# ご案内

光円寺 パソコン教室(修理、相談も) 毎月・第三火曜日

十一月十六日(火) 午前十時〜 参加費 五百円(パソコン持込)

光円寺・女性会 正信偈の書写

十一月十七日(水) 午前十時〜 勤行・お話・書写

光円寺 第十九回 選択本願念仏集を読む会

十一月十八日(木) 午後七時半〜 講師:玉光真人さん

第三章の「本願章」に入っています。「弥陀如来、余行をもつて往生の本願としたまはず。ただ念仏をもつて往生の本願としたまへるの文」

光円寺 山の家 満月の集い

満月: 十一月二十二日(月) **※要連絡** 冬季は天気を見て行きます。

光円寺・門徒親睦旅行

十一月二十一日(日) 午前七時 出発

〜本山・東本願寺報恩講参拝と金戒光明寺を訪ねて〜

光円寺 同朋会 「仏説阿弥陀経に学ぶ」

十一月二十八日(日) 午後二時〜四時 お経「仏説阿弥陀経」

お話・座談 お経の練習もしています。初めての方も是非!

光円寺・草朋会 本堂の清掃

十一月二十八日(日) 午後十一時〜十二時半

光円寺・報恩講

準備(お磨き餅つき) 十一月二十八日(日) 午前八時半〜

報恩講 十二月四日(土)〜五日(日) \*後日、別紙にて案内します。

## 編集後記

今年も菊の鉢植えを日さんが先月末に玄関前に届けて下さいました。季節の贈り物です。今年は花が小さいのかと思いきや、どんどん大きくなって、ビックリするような大輪!数えきれない花びらがまだまだ内側から開いて来ます。永代経では山の木と頂いた花:で美しく荘厳も出来ました。また、今年は、ほんまに、枝豆をあちこちからたくさん頂きました。もう枝豆として食べる事が出来る時期は過ぎてしまっているのですが、先日頂いたのを日向ぼっこをしながらサヤをちぎりました。最盛期の豆ならサ

ヤが、青々としているのですが、この時期は黄色いような茶色を帯びたような鞘の色です。そんな色の枝豆を引きちぎりながら、ふと:このサヤの中の豆はどんな色をしてるんやらか?と。青いサヤの時は青色!。しかし、もう黄色っぽくなっているの、中は黄色か、元々の青色かいなあと:思いきや:。な!なんと!青でも黄色でもなく、ピンクの濃いような赤紫のような赤いような:。不思議な感じの色の豆が目の前に現れたのです。で、それは黒豆の枝豆だったので、先っぽの豆のサヤで既にまっ黒になっていたのを聞くと中には、ちゃんとまっ黒の豆・黒豆が入っていました。ということは黒豆になる前の色だったのです。順に青いサヤ、黄色いサヤ、茶色いサヤを見て行くと、そこには「黒豆の黒豆になる歴史」が凝縮されていました。緑の豆が黒豆に:。途中赤みを帯びながら徐々に黒になっていく。いのちを受け生きるものの「相」が如実に顕れていました。いやあくほんとはびっくりものでした。田舎に住んでいて、毎年・毎年、黒豆の枝豆を頂いていながら:。枝豆の時の黒豆から黒豆になって行く黒豆。この二つの間の歴史を今日初めて見る事が出来た貴重な日でした。(明)



表紙の歌はある方に教えていただき心に染み、読んだ方は誰だろうとインターネットで調べるとわかって感激!発信元の光源寺ご住職にお許しを得て紹介させて頂きました。感謝。http://www.1cncn.jp/~k-naoya/ 藤元師のお話がとても難しく理解できませんが、仏法というのはあまりにも深遠で、釈尊でさえ語ることをためられたそうで、わからなくて当たり前なんだと思いなおして、分からはわからぬままに読み続けです。お話に出てきた「責任重大」というときに、日ごろの心では何か引き受けたことに対する責任が重大と感じてしましますが、そうではなくて私たちが生まれてきたこと生きていることの責任ということなんです。とても根源的で、歴史的な視点です。何で生まれて来たのか!その問いは誰もが幼い時に抱いている根源的な問いだと言います。その問いはやがて世間を生きる間に埋もれて行くけれど、苦悩がそれを破る時厳然としてあらわれる問いなのです。そのことを明らかにする責任なんて思いもしないで生きている「日ごろのこころ」にては本当に往生かなうべからず。分かるうとする心も日ごろのこころ。しばしすておき、南無阿弥陀仏 (惟) 印刷しようと思ったら、原稿一枚多かった!割愛(涙)